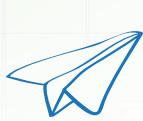


「読解」の授業

学級ライブ I

2025 夏 学級づくりセミナー (2025.8.16)



「使える知識」を蓄える



暗記で覚える

知識(ことば)の意味や
働き、使い方を考えない

知識が動かせない

死んだ知識になる

記録に残らない

思考・経験で覚える

知識(ことば)の意味や
働き、使い方が修正・
変化する

知識を動かせる

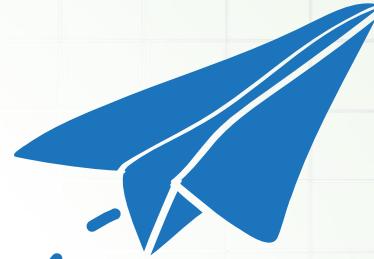
生きた知識になる

思考をコントロール
できる

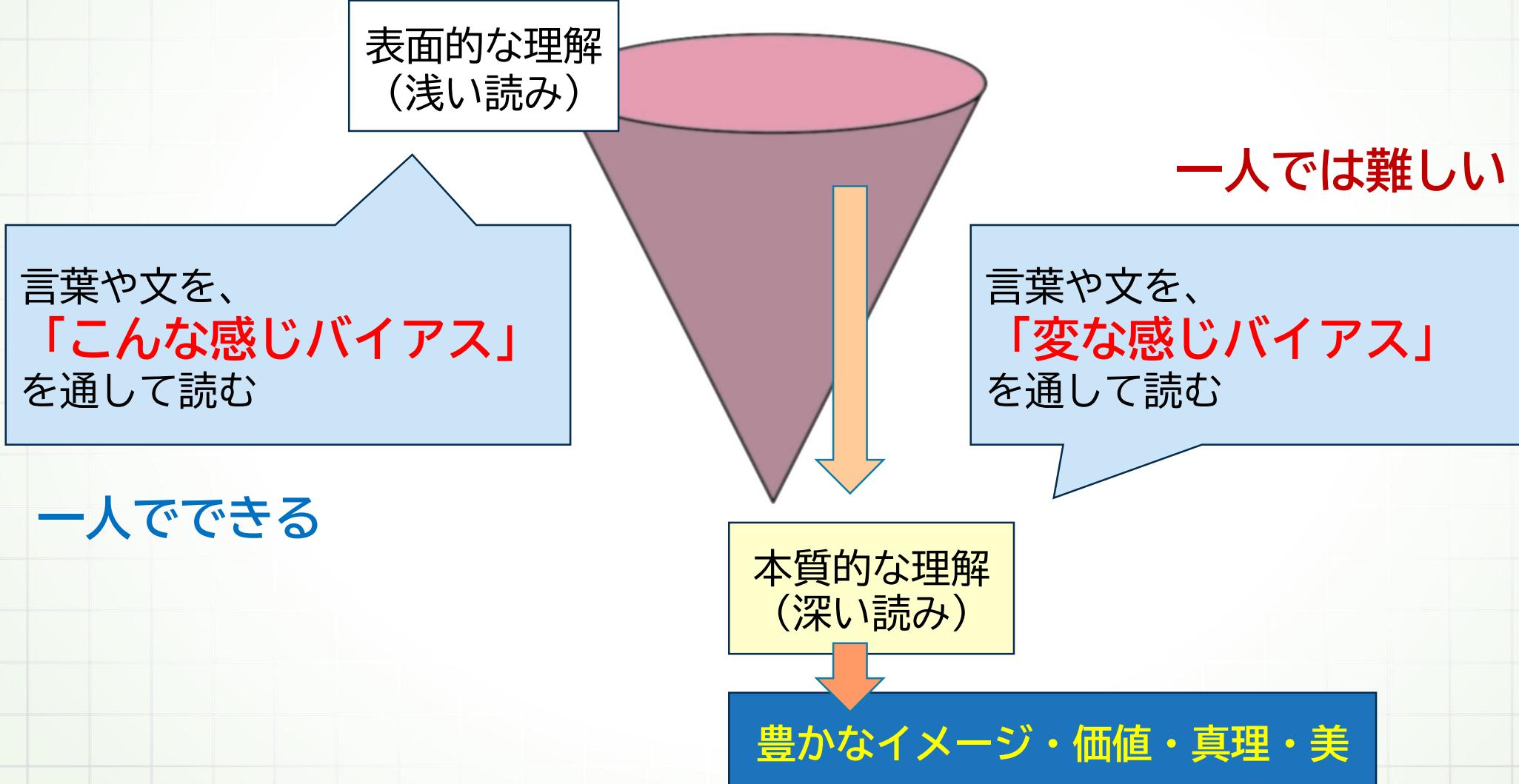
どれだけ
この経験を
積むか

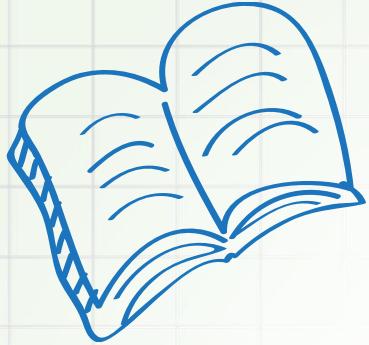
読み解きの授業 理論

01



「読解」のイメージ





「こんな感じバイアス」

例1



「そうかなあ。」

「そうだとも。だから、毎日、神様にお礼を言うがいいよ。」

「うん。」

「ごんは、「へえ、こいつはつまらないな。」と思いました。
「おれがくりや松たけを持つていいってやるのに、そのおれ
にはお礼を言わないで、神様にお礼を言うんじゃあ、おれ
は引き合わないなあ。」

6

その明くる日も、ごんは、くりを持って、兵十のうちへ出かけました。兵十は、物置で縄をなつていきました。それで、ごんは、うちのうら口から、こつそり中へ入りました。そのとき兵十は、ふと顔を上げました。と、きつねがうちの中へ入ったではありませんか。こないだ、うなぎをぬすみやがったあのごんぎつねめが、またいたずらをしに来

『『いざなづね』より

その明くる日も、ごんは、くりを持って……。
「兵十」と「加助」の話を聞き、「引き合わないなあ」と思った「ごん」が、その明くる日も「兵十」のうちへ出かけている。自分の行為とは気づいてもらえない悲しさや寂しさがある中で、それでも独りほっちの「兵十」に共感し、寄り添っていることや、自分のしたいたずらに対する後悔の深さが、「ごん」の行動から伝わってくる。

学習指導書より



「こんな感じバイアス」

例2



「ゆみ。……一つだけのお花、大事にするんだ
よう——。」

父から娘へ、万感の思いが込められた言葉
である。花に託された「お父さん」の願い
をしっかりと読み取らせたい。

ゆみ子は……。お父さんは、それを見てにつ
こりわらうと、何も言わずに……。一つの花
を見つめながら——。

食べ物をねだって泣いていた「ゆみ子」が、
食べられないけれど美しい花をもらって喜
んだ。戦争によってねじ曲げられ、貧しい
心のまま成長してしまうのではと心配して
いた「お父さん」は、「ゆみ子」の心の中
に美しいものを尊ぶ人間らしい豊かさが
あったのを知って、安心することができた
であろう。一方で、幼い「ゆみ子」を残し
て戦争に行く「お父さん」の切ない気持ち
も読み取らせたい。

学習指導書より

んが、ぶいといなくなってしまった。

お父さんは、プラットホームのはしつばの、ごみ
すて場のような所に、わすれられたようにさいていた
コスモスの花を見つけたのです。あわてて帰ってきた
お父さんの手には、一輪のコスモスの花がありました。
「ゆみ。さあ、一つだけあげよう。一つだけのお花、
大事にするんだよう——。」
ゆみ子は、お父さんに花をもらうと、キヤツキヤツ
と足をばたつかせてよろこびました。

10



5

『一つの花』より



「こんな感じバイアス」

例3



できる。ここで注意したいのは、「大造じいさん」の言う「ひきょうなやり方」を、「1」から「3」の計略と考える児童がいるかもしれないということである。その際には、「1」の「りょうじゅうのとどく所まで、決して人間を寄せつけませんでした」という叙述を取り上げ、その「残雪」に対して、「1」から「3」で「大造じいさん」がとった計略は「ひきょう」なものではないこと、「また堂々と」という言葉から、「大造じいさん」が自分のとった計略は「堂々と」したものであったと感じていることを確認させたい。

学習指導書より

じいさんは、おりのふたをいっぱいに開けてやりました。

残雪は、あの長い首をかたむけて、とつぜんに広がった世界におどろいたようありました。が、

バシツ。

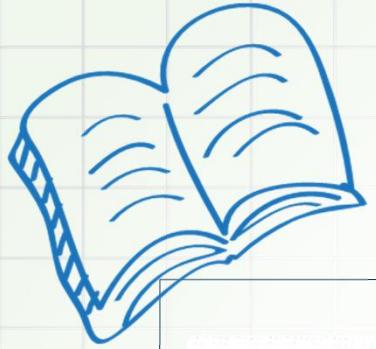
快い羽音一番、一直線に空へ飛び上りました。

らんまんとさいたスマモの花が、その羽にふれて、雪のように清らかに、はらはらと散りました。

「おうい、ガンの英雄よ。おまえみたいなえらぶつ(えらぶつ)を、おれは、ひきょうなやリ方でやつつけたかあないぞ。なあ、おい。今年の冬も、仲間を連れてぬま地にやつて来いよ。そうして、おれたちは、また堂々と戦おうじゃあないか。大造じいさんは、花の下に立って、こう大きな声でガンによびかけました。そして、残雪が北へ北へと飛び去つて、いくのを、晴れ晴れとした顔つきで見守っていました。

いつまでも、いつまでも、見守っていました。

『大造じいさんとガン』より



「こんな感じバイアス」

例4



体を動かすためには、エネルギーが必要です。

私たちは、エネルギーを得るために、食べものを食べます。食べものは消化された後、養分として体の中に吸収されます。養分や、呼吸によってとり入れられた酸素は、血液を通して全身の細胞に運ばれます。細胞では、酸素を使って養分からエネルギーがとり出されます。このエネルギーを使って、私たちは活動することができます。



読解の過程



「いい話だ」
で終わり

「こんな感じ
バイアス」を
通した読み

一人では難しい。友だち・学級の力が必要

当たり前のよ
うに読んでし
まう

読みの違いを、
問題として意
識できない

言葉の意味や
ニュアンスを
適用できな

違和感・
謎をもつ

問題を
もつ

解決する

深い読み

リアルな
映像として
見たような感動

「変な感じバイアス」を通した読み

一人でできる

一人でできる

一人でできる

一人でできる

友だちの力を借りながら、
学習過程を積み重ねること
で、少しずつ「一人ででき
る力」（個人の学習能力）
を高めていくことが可能と
なる。
それが協働学習の価値。

きせつの
言葉 2



夏のくらし

鶴見
まさお

はなび

ひのはな
さけさけ

なつのよるのにわに

さいてちつて

ちつてきて

きえてもまだ

のこる

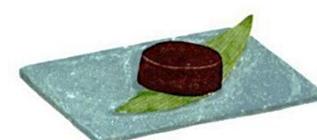
とじためのなかに
ふしぎなひのはな
いまさいたはなび



国語 三上 わかば より



・白玉



そうめん



白玉



水ようかん



みつまめ

どころてん



ふうりん

あみ戸

せんぶうき

● あつい夏をのり切るためのくふうです。

● 夏には、つめたくて、のどごしのよいものがよく
こばれます。

生活の中で、夏らしさを感じることはありますか。みの回りで見つけた、夏を感じたものについて書きましょう。



「変な感じバイアス」 の必要性



「すぐれた小説家は、**最も大切な宝物**をみすみす見えるところに置いたりはしない、隠すのだ」「小説家はどうやって宝物を埋め込むのだろうか。その一つの方法は、肝心な事柄を省略して書かないことである。」「言葉の隙間こそが重要な働きをしている」「小説の重点は因果関係(プロット)に置かれており、『なぜか』という問いを満足させるために書かれたもの」

(石原千秋 『未来形の読書術』)

「とにかく、大切なのは、立ち止まって、『どうして?』と考えてみることだ」「会話の中で、聴く気のない相手に対して、人が『この人に話しかけてもしかたない』とそっぽを向いてしまうように、『なぜ?』という疑問を持たない人には、本は永遠に口を閉ざしてしまうだろう」

(平野啓一郎 『本の読み方ースローリーディングの実践ー』)



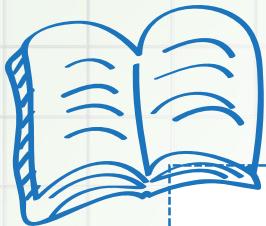
わざわざ隠された宝物は、
「こんな感じバイアス」では、
見つけられない。

わざわざ隠された宝物は、
「変な感じバイアス」を通してこそ、
見つけられる。

⇒ **授業の価値**



変な感じバイアス



01

こんなことはやる
(言う)はずがない、
という感じ



02

このような展開は
あり得ない、という
感じ

03

このような言葉を使
わなくてもいいのに、
わざわざ使っている
という感じ

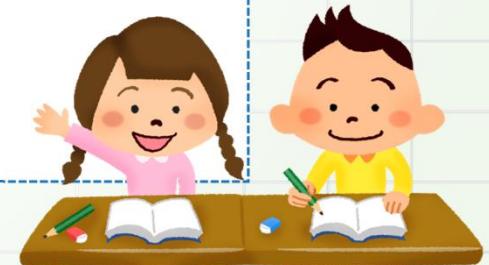
04

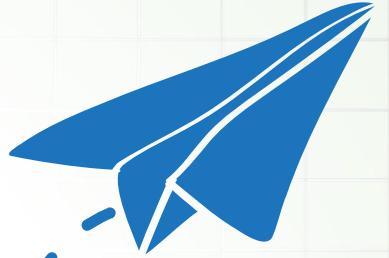
このような書き方
(文)をしなくていいのに、わざわざ書
いているという感じ

05

このように書けばい
い(言葉・文)のに、
わざわざ書いてい
ないという感じ

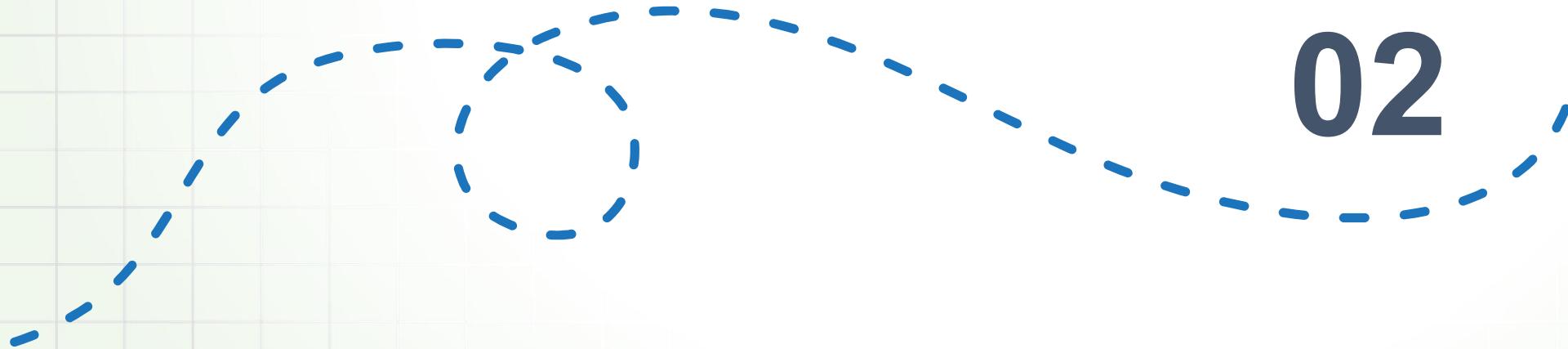
「こんな感じバイアス」
からの
脱却をめざす！





読み解きの授業 演習 (授業ライブ)

02





目的（6つの経験）



1

個々の学びと他者
との学びの大切さ

2

考え方の違いがある
ことの面白さと楽
しさ

3

「変な感じバイア
ス」の効力

4

言葉の意味や使い
方などの威力

5

追求の授業の手順

6

教材の深さと価値


あの坂をのぼれば

——あの坂をのぼれば、
海が見える。
少年はもう一度、
力をこめてつぶやく。

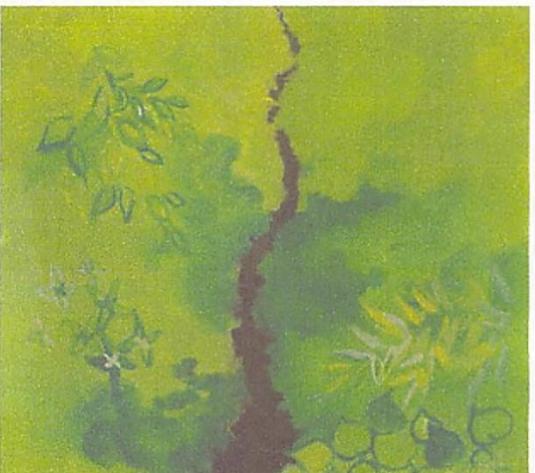


「ひろがる言葉」小学国語6上
(教育出版) より

あの坂をのぼれば

- ① —あの坂をのぼれば、海が見える。
- ② 少年は、朝から歩いていた。草いきれがむつと立ちこめる山道である。顔も背筋もあせにまみれ、休まず歩く息づかいがあらい。
- ③ —あの坂をのぼれば、海が見える。
- ④ それは、幼いころ、そいねの祖母から、いつも子守歌のように聞かされたことだつた。うちの裏の、あの山を一つこえれば、海が見えるんだよ、と。
- ⑤ その、山一つ、という言葉を、少年は正直にその

杉
みき子 文
かんの ひろみ 絵



まま受け止めていたのだが、それはどうやら、しぐく大ざっぱな言葉のあやだつたらしい。現に、今こうして、とうげを二つ三つとこえても、まだ海は見えてこないのだから。

⑥ それでも少年は、呪文のよに心に唱えて、のぼってゆく。

⑦ あの坂をのぼれば、海が見える。

⑧ のぼりきるまで、あと数歩。半ばかけだすようにして、少年はそのいただきに立つ。しかし、見下ろす行く手は、またも波のように、下つてのぼつて、その先の見えない、長い長い山道だった。

⑨ 少年は、がくがくする足をふみしめて、もう一度気力を奮い起こす。

⑩ あの坂をのぼれば、海が見える。

⑪ 少年は、今、どうしても海を見たいのだった。細かくいえきりもないが、やりたくてやれないことの数々の重荷が背に積もり積もった時、少年は、磁石が北をさすように、まっすぐに海を思ったのである。自分の足で、海を見てこよう。山一つこえたら、本当に海があるのを確かめてこよう、と。

——あの坂をのぼれば、海が見える。

⑫ しかし、まだ海は見えなかつた。はうようにしてのぼつてきたこの坂の行く手も、やはり今までと同じ、果てしない上り下りのくり返しだつたのである。

⑬ もう、やめよう。

⑭ 急に、道ばたにすわりこんで、少年はうめくようにそう思つた。こんなにつらい思いをして、坂をのぼつたり下りたりして、いつたいなんの得があるのか。この先、山をいくつこえたところで、本当に海へ出られるのかどうか、わかつたものじやない……。

⑮ 額ににじみ出るあせをそのままに、草の上にすわつて、通りぬける山風にふかれていると、なにもかも、どうでもよくなつてくる。じわじわと、疲労がむねにつき上げてきた。



⑯ 日はしだいに高くなる。

これから帰る道のりの長さを思つて、重いため息をついた時、少年はふと、生き物の声を耳にしたと思った。

⑰ 声は、上から来る。ふりあおぐと、すぐ頭上を、光が走つた。つばさの長い、真っ白い大きな鳥が一羽、ゆつくりと羽ばたいて、先導するように次のとうげをこえてゆく。

⑱ —あれは、海鳥だ！

⑲ 少年はとっさに立ち上がつた。

⑳ 海鳥がいる。海が近いのにちがない。そういえば、あの坂の上の空の色は、確かに海へと続くあさぎ色だ。

㉑ 今度こそ、海に着けるのか。

㉒ それでも、ややためらつて、行く手を見はるかす少年の目の前を、ちようのようひらひらと、白い物がまい落ちる。てのひらをすばめて受け止めると、それは、雪のようなひとひらの羽毛だつた。

㉓ —あの鳥の、おくり物だ。

㉔ ただ一ぺんの羽根だけれど、それはたちまち少年の心に、白い大きなつばさとなつて羽ばたいた。

㉕ —あの坂をのぼれば、海が見える。

㉖ 少年はもう一度、力をこめてつぶやく。

㉗ しかし、そうでなくともよかつた。今はたとえ、この後三つの坂、四つの坂をこえることになろうとも、必ず海に行き着くことができる、行き着いてみせる。

㉘ 白い小さな羽根をてのひらにしつかりとくるんで、ゆっくりと坂をのぼつてゆく少年の耳に——あるいは心のおくにか——かすかなしおざいのひびきが聞こえ始めていた。





「こんな感じバイアス」

で読むと…





「変な感じバイアス」
で読むと…



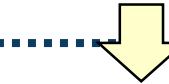


まとめ 言葉のモデル



子どもの言葉が育つ条件

- 〈乳幼児期〉 1 乳児期からたくさんの豊かな言葉を周囲の人からかけられること（聞くこと）
2 周囲の人の言葉をまねて発すること
モデル =大人・保育者



〈児童期〉

モデル =大人・教師・**教科書**

これらの発見は、
集団でこそ
高まる！

教科書教材をモデルとして…

言葉の意味・働き・使い方・言葉の関係性・言葉の選択・
文章の明快さ・文章構成の面白さ・表現の工夫
言葉の価値・言葉のもつ力・言葉と文が宿す美

などに触れることを繰り返す。そのための授業を積み重ねる。



⇒ **言葉の力を育てる** ⇒ **人を育てる**